

大石 重樹 議員

市南部地域の

振興対策を望む

問 津波避難対象地域の変更を考えているのか。

答 今まで概ね海岸から5キロメートル、海拔5メートル以下としていた区域を、全体的に見直し、10月の防災対策特別委員会において示していきたい。

問 地域振興基金は2年で満期を迎えるが、原資を今後どのような用途に用いる予定か。また、基金利子を充当して、命山や避難タワーを活用した地域おこし活動などを支援していく考えはあるか。

答 地域振興基金は、市民の連携強化や地域振興に資する事を目的として、合併時に創設された。2年後に満期を迎え、取り崩すことも可能であるので、地域振興につながる事業に活かすべく、基金の活用を検討していきたい。



渋滞する浅羽支所北交差点

県道磐田掛川線の改良を望む

問 浅羽支所北側交差点に、右折レーンの整備が必要と考えるがどうか。

答 全線開通に伴い交通量が増え、大型車の通行も多い。浅羽支所方面に右折する車輛も多く交差点が渋滞している。右折レーンの設置を県に要望するとともに、時差式信号機の設置について公安委員会と協議をしていきたい。

村松 尚 議員

新総合体育館整備の

取り組みを問う

問 整備計画の今後の進め方、取り組みは。

答 具体的な施設規模や事業費などは、整備構想の中間報告として11月議会に示す予定である。また、来年2月議会には、建設候補地や財政面などを含めた整備構想案として示していきたい。

問 来年度以降の整備スケジュールは。

答 大規模な災害が心配され、避難所として利用可能な施設としても重要である。また、事業費として合併特例債の活用も視野に、建設時期も可能な限り早めていきたい。当面、平成28年度の着工を目指し、26年度から基本設計、詳細設計を実施していきたい。

都市間交流事業の

積極的な取り組みを

問 今後の新たな姉妹都市、友好都市の提携の考え方は。

答 昨年、福井県鯖江市との間で民間レベルでの交流が始まり、本年3月に災害時相互応援協定が締結された。今後、両市における議会、産業、文化、民間の機運の高まりなどの状況を見た中で、判断していきたい。



鯖江市と災害時相互応援協定を締結